

中国天津市における日系企業の実態と展望-中国進出の焦燥-

杉山友哉 (21211179ys@tama.ac.jp)

2014年、日本のGDPランキングは3位だ。しかし、様々な機関が2050年時点のGDPランキングを予測しているが、日本はいずれも4位から8位と、3位を下回っている。この原因として、少子高齢化による人口の減少が挙げられる。国土交通省は、2050年に人口が約9,700万人まで減少すると予測している。また、人口の減少により国内市場は縮小する。そのため、既に様々な企業が市場を求め海外へ進出している。中国は2014年に購買力平価を基準にしたGDPではアメリカを抜き1位になると予測されている。隣国である中国の約13億人の市場は日本にとって魅力的なものだ。一方、近年では中国の高齢化、政治・社会情勢の悪化、人件費の増加、環境問題の悪化などの理由で、中国から撤退する企業が目立つ。現在、在中日系企業の実態はどうなっているのか。今後、日系企業はどのように中国と向き合い、進出していけばよいのだろうか。しかし、中国の国土は日本の約25倍、人口は10倍以上であり、一概に「中国」とまとめることは困難である。そこで、2014年自由貿易区が許可された天津市に焦点を絞り、本研究を行う。

このような問題意識を元に中国全体の概要、天津市の概要を調べた。天津市はGDPの内、第一次産業の割合が非常に少なく、1.3%。第二次、第三次産業は約50%ずつであった。天津市に進出している企業では製造業が目立ち、トヨタ自動車、ヤマハなどの大手企業が進出している。そして、大手製造業を筆頭に部品供給を行うサプライヤ

一企業の進出も見られている。これから、日系企業は、天津市の中で日本のネットワーク、産業集積をはかろうとしていることがうかがえる。

参考文献

百度百科 天津

<http://baike.baidu.com/view/2828.htm>

日本貿易振興機構北京センター「天津市 概況と投資環境」

https://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/kahoku/pdf/overview_tianjin_201006.pdf

吉田健太郎・石井誠「現代中国における日系中小企業の経営課題」

http://www.ris-keiei.com/faculty/yoshida/n43_yoshida_2011.05.pdf

みずほ銀行中国営業推進部「みずほ銀行天津市概況」

<http://219.127.148.131/corporate/world/info/cndb/regions/province/municipality/pdf/09-0089-CF-0403.pdf>

『中国貿易外経統計年鑑2013』中国統計2013/10